

令和六年一月号

《第一三三号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

睦月の祭典・行事案内



【月次祭】 九時半

六日(土)

三十日(火)

【歳旦祭】 九時半

一日(月)

【元始祭】 三日(水) 九時半

※歳旦祭・元始祭は奉納舞あります

【二月】

二日書初め、初荷・四日官庁御用始め・六日小寒・七日七草、昭和天皇祭・八日成人の日・十一日鏡開き・十五日小正月・十六日藪入り・二十日大寒・二十七日国旗制定
記念日・三十日孝明天皇例祭

【昭和天皇御製】(第一二四代)

「海辺巖」

いそ崎にたゆまずよするあら波を凌ぐいはほの力をぞおもふ

(昭和五年)

【例祭】 十二月十六日(土)

十二年前の卯年に当神社は創建に向けて着工され、辰年の平成二十四年十二月十六日に厳島神社より御祭神をお迎へして鎮座祭を斎行しました。そして、巳年の正月を迎へ、多くの初詣の方々のお参りを頂きました。

あれから十一年間、コロナ禍を乗り越え、今や三百名を数へる崇敬会員の方々に支へられ、一年後には二度目の巳年を迎へることにあります。御祭神の御稜威に感謝の誠を捧げる次第です。

今から三百年前の江戸の御代より地域住民の信仰の継続が、平成の御代に当神社の設立として結実したのではないでせうか。



しい祭典になればと念じてをります。来年度はその大祭に向けての準備に迫はれることとせう。

【推薦図書】

『歴代天皇の御製集』

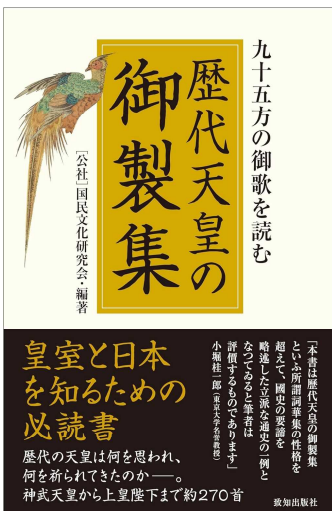
二四二〇円

―九十五方の御歌を読む―

国民文化研究会編著

致知出版社

「：①神話にさかのぼる皇室のご存在と、②和歌を中心とする豊かな国語文化という、わが国を特徴づける二つの伝統は、実は一つにつながっています。天皇と国民が和歌を歌いかわすという世界がわが国にはあります。その典型的な例が我が国を代表する歌集、『万葉集』です。上は天皇・皇族から、官僚、専門歌人、さらには無名の民衆まで、その心を伝える和歌を網羅した大歌集です。そこには、男女の恋、親子の情、死別離別の悲しみ、生活の楽しさと苦しみ、平和と戦い、懐古と希望、動植物など自然とのふれあい等々あらゆる感情が豊かに歌い上げられています。その心の動きをよく示す和歌に対しては、作者の地位や階層などを問わず、その和歌を、その心を愛でて、それを『万葉集』に採録したのです。この『万葉集』に見られるような、天皇と国民が和歌を通してお互いの心を知るとい営みは、現在も正月に行われる『歌会始』で行われているのはご承知のことでしょう。」



『尖閣1945』

一七六〇円

門田隆將著・産経新聞出版

「…尖閣を『実効支配しているのは中国』あるいは『尖閣は核心的利益』との中国の主張はあらゆる機会を捉えて主張され、インターネットでも中国政府による『中国釣魚島博物館』が二〇二〇年十月に“開館”し、着実にアクセス数を積み重ねている現状をどう見るべきだろうか。

この福建師範大学の研究チームによって作られた『中国釣魚島博物館』では、日本は『盗人』と表現され、『日本は陰謀企て、釣魚島を侵略・占領し、1894年の日清戦争が終わってのちに秘密裏に、島を領土に編入したのである』と主張している。だが、これが全くの虚偽であることは第六章で詳述したとおりだ。近づく台湾有事は沖縄有事でもある。もし、中国が台湾に対して、ロシアと同様、力による現状変更に踏み切るなら、尖閣を含む八重山諸島は『戦火』に見舞われる可能性がある。しかし、その日本側の対処については極めて心もとないのも事実である。どうか、尖閣を、八重山全体を、日本国民が力を合わせて守り抜いて欲しいと心より願う。」（おわりに）から

『古事記』（五十三）

（火遠理命の嘆息）

ところで火遠理命は、その初めの事を思ひ出されて、深いため息をされました。それを豊玉毘売命は、そのため息を聞かれ、父である神に「火遠理命は、三年もここに住んで居られますが、ふだんはため息をされることはなかつたのに、今夜は深いため息をされました。何かわけがあるのではないでせうか。」と申し上げました。そこで、父の海神大社は、その婿である火遠理命に尋ねて「今朝、私の娘の語る事を聞くと、『三年も居られますが、ふだんはため息をされることはないのに、今夜は深いため息をされました』と言っておつたが、もしや深い訳があるのではないでせうか。また、あなた様がこの国においでになつたわけは、何でありませうか。」と言はれました。そこで、火遠理命は、海神大神に詳しく、兄の釣り針を失つたことについて、その釣針を返せと責め立てられた様子を語り告げられました。（続く）

お伊勢様の御札をご家庭に

伊勢の神宮はわが国において最も貴い総氏神さまです。当神社の御札と一緒に
お祀りしませう。神棚（お宮）の無いお
家には無料にて差し上げます。ご遠慮な
くお申し出ください。

【御札は一体 千円】

尚、古い御札・お守も預ります。

一月七日までにお持ち下さい。

お飾り等の橙（ダイダイ）やみかんは外
してご持参ください。

【令和六年厄年表】

	前厄	本厄	後厄
	24 歳	25 歳	26 歳
男 性	平成 13 年生	平成 12 年生	平成 11 年生
	41 歳	42 歳	43 歳
	昭和 59 年生	昭和 58 年生	昭和 57 年生
女 性	60 歳	61 歳	62 歳
	昭和 40 年生	昭和 39 年生	昭和 38 年生
女 性	18 歳	19 歳	20 歳
	平成 19 年生	平成 18 年生	平成 17 年生
	32 歳	33 歳	34 歳
	平成 5 年生	平成 4 年生	平成 3 年生
	36 歳	37 歳	38 歳
	平成元年生	昭和 63 年生	昭和 62 年生

- 皇室カレンダー・一千円
- 伊勢の神宮カレンダー・八百円
- 靖国カレンダー・五百円

おしらせ

三が日にはすべての祈願に
巫女舞の奉納がきます。

